会　議　録

■　議事内容　　２０２６年度９月定例教育委員会
■　日　　時　　令和８年９月２９日（火）１３：３０～１６：４０
■　場　　所　　４階会議室４－１
■　出 席 者　　教　育　長　小西　博泰
教 育 委 員　藤本真理・石原友紀・酒井秀彦・加納昌樹
事　務　局　入江教育管理部長・藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
福西スポーツ振興課長・教育総務課　小畑

■〔会議の内容〕

１　開会あいさつ

・教　育　長

２　前回議事録の確認

（全委員一致で承認）

３　報告事項

・令和８年度主要事業及び情報・進捗状況の説明、教育委員からの意見聴取

■〔学校教育課関連〕

①「夢と希望の教育」の充実と深化（脳科学理論に基づく教育の推進、「１６か年教育」の推進）【教育課程管理】

（進捗状況）

・９月１７日、幼稚園の入園説明会を実施した。３歳児のみで２３名、トータルで約６０名と多くの参加があり、入園応募者が増えることを期待している。
・９月２６日、コミセンおのにおいて英語検定を実施し、１００名以上の子どもたちが受検した。

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危機管理】

（進捗状況）

・過剰な要求を繰り返す保護者への対応については、学校と連携し、組織的な対応に努めている。
・就学援助事務、修学旅行とフリースクールの補助事業の手続きを順次進めている。

③人材育成（ミドルリーダー）と働き方改革【人的管理】

（進捗状況）

・９月５日、県の校長筆記選考試験が実施され、６名が受検した。教頭選考試験については、１０月下旬頃、実施される予定である。

・教員の超過勤務時間については、若干、減少傾向は見られるものの、大きな変化はない。
・１２月２５日の「子ども性暴力防止法」の施行に伴い、採用する全ての教職員を対象として、過去の性暴力等に関する経歴を確認する仕組みが開始される。それに向けて、全教職員を対象とした説明及び研修を実施した。また、ＡＬＴに対しても、英語版資料を用いて、同様の説明及び研修を実施した。

④学校教育課情報

１　市の取組

９月９日・１０日・１６日・１７日・２４日　市教育支援委員会
９月２６日（土）英語検定（コミセンおの：午後から）

２　学校の取組

〇小・中・特別支援学校修学旅行

９月　８日（火）～１０日（木）　河合中（東京方面）　無事終了
９月１７日（木）～１８日（金）　河合小（奈良・京都方面）　無事終了
１０月１４日（水）～１５日（木）　小野・大部・市場小（奈良・京都方面）
１０月１５日（木）～１６日（金）　小野東・大部小（奈良・京都方面）
１０月２７日（火）～２８日（水）　中番・下東条小（奈良・京都方面）

〇小学校自然学校

学校名	実施期間	利用施設	備考
小野小学校	９月２８日（月）～１０月　２日（金）	嬉野台生涯教育センター	
小野東小学校	７月　６日（月）～　７月１０日（金）	南但馬自然学校	済
河合小学校	９月１４日（月）～　９月１８日（金）	南但馬自然学校	済
来住小学校	１１月１６日（月）～１１月２０日（金）	嬉野台生涯教育センター	
市場小学校	１１月１６日（月）～１１月２０日（金）	嬉野台生涯教育センター	
大部小学校	１０月　５日（月）～１０月　９日（金）	嬉野台生涯教育センター	済
中番小学校	１０月　５日（月）～１０月　９日（金）	嬉野台生涯教育センター	
下東条小学校	６月１５日（月）～　６月１９日（金）	南但馬自然学校	済

※南但馬自然学校⇒　現在のところ、クマの影響なし

３　学校の状況等

〇９月　４号報告１件（計１１件）
〇９月の不登校の状況　（　）内は前年数値
小学校７名（１２名）、中学校５５名（５９名）　合計６２名（７１名）

夏休み明けの不登校児童生徒数については、急増することなく、概ね順調に推移している。引き続き、気を引き締めて取組んでいく。
フリースクールを利用している児童生徒について、「出席扱い」を希望する保護者が増えてきている。また、オンライン型フリースクールについても、「出席扱い」とすることを認めてほしいという申し出があるため、運営代表者とオンラインで面談を実施し、確認を進めているところである。しかし、フリースクールの補助金については、当初、オンライン型の活用を想定していなかったため、県の教育委員会と協議中である。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：オンライン型フリースクールの利用については、保護者が独自に情報収集し、探してこられたものなのか。（教育長）

A：保護者が見つけてきたものである。オンライン型フリースクールについて、大阪府では、認めていく方向で取組が進められているが、兵庫県では、初めての事例であるため、慎重に検討を進めている。（事務局）

Q：オンライン型フリースクールの利用料はいくらぐらいかかるのか。（教育委員）

A：他のフリースクールとほぼ同程度であり、月額約３万円である。個別の支援計画を作成し、保護者及び学校へ提示するとともに、毎月の状況報告も行われると聞いている。（事務局）

Q：過剰な要求を繰り返す保護者とは、同様の要求を反復することを指すのか、それとも、多様な要求を次々とすることを指すのか、どちらなのか。（教育委員）

A：両方ある。全く別の系統で事象が発生した場合であっても、同じ要求を反復するケースと、要求内容が次第にエスカレートしていくケースがある。特に、要求がエスカレートする事案については、学校の初期対応のあり方が、その後の状況に大きく影響するため、適切な初動対応が重要である。（事務局）

※：子どもたちへの対応については、日頃から丁寧かつ適切な対応を積み重ねることが重要であり、そのことが様々な課題の未然防止につながると考える。今後、カスタマーハラスメント対策の義務化が進んでいくが、学校においては、形式的な対応や、制度を盾にした対応を行ったりするのではなく、個々の事案に応じた適切な対応が必要である。
また、フリースクールの問題についても課題は多い。義務教育は無償という原則がある一方で、フリースクールは私学と同様なのではないかという意見もある。特にオンライン型については、学校へ通学していないという側面はあるものの、子どもを中心に据えた場合、外部との繋がりが確保できるという利点がある。そのため、今後も検討を深めながら、対応のあり方や制度面の整備を進めていく必要がある。（教育長）

※：現在の不登校対策は、フリースクール、校内サポートルームや教育サポートセンターなど、不登校が生じた後の支援や対応に重点が置かれている。不登校を未然に防ぐために学校ができる取組については、従来から大きく変わっておらず、県や国においても、事後的な対処療法だけでは十分ではないとの認識が広がってきている。また、小学校への円滑な接続を図るためには、幼児期における教育や育ちの基盤をしっかりと形成することが重要であり、その部分が十分でない場合、成長した時に様々な課題や困難に適切に対応できず、不登校や学校生活への不適応につながる可能性があるとの指摘もある。川島先生がよくおっしゃっている親子の愛着形成の重要性についても認識が広がっており、子どもの発達の基礎となる部分を繋いでいくという観点からも、幼保小の連携に関する取組は、子育ての見直しとして重要視されている。（事務局）

■〔教育総務課関連〕

①学校施設長寿命化対策事業

●旭丘中学校

（進捗状況）

・体育館建替工事の進捗率は、８月末時点で７５％、工程より５％の遅れはあるが、９月末までに工程どおり進捗する見込みである。
工事内容：内装工事、機械設備工事、電気設備工事、外構整備工事

●河合中学校

（進捗状況）

・仮設校舎賃貸借については、８月末で終了し、２学期から仮設校舎にて授業を開始している。仮設校舎については、子どもや保護者から「音の反響が少ない」「トイレが綺麗」など、快適であるとの評価をいただいている。
・校舎建設工事の進捗率は、８月末時点では０％であったが、９月現在、仮囲いができ、北校舎の解体が進んでいる。
・格技場トイレ改修工事
６月２９日入札落札　７，９９７，０００円
梅田工務店株式会社　→　８月３１日完成

（今後の予定）

・９月上旬：校舎解体工事（工期：令和８年７月～令和９年１１月）
・１２月再入札：体育館長寿命化工事設計業務委託

②ＧＩＧＡスクール端末更新事業（ＧＩＧＡスクール構想第２期「NEXT GIGA」）

（進捗状況）

・２学期：新端末の使用開始

（今後の予定）

・１１月：旧端末の廃棄・回収

③学校施設適正化推進事業（学校施設長寿命化計画の改定、適正規模・適正配置に関する基本方針の策定）

（進捗状況）

・９月末を締切として、保護者・教職員アンケートを実施している。

→現在、保護者：約１，８００件（半数以上）、教職員：６０～７０％の回答

（今後の予定）

・１０月末：アンケートの集計・分析

④教育総務課情報

１　学校施設工事関係

○小野中学校格技場空調設備整備工事設計・監理業務委託

１月３０日入札不調、３月９日入札不調、３月２４日随意契約

有限会社　ゼン建築設計　２，４５３，０００円

○小野中学校格技場空調設備整備工事

７月１７日入札不調、随意契約　工期：７月３０日～１１月２０日

小林設備工業　有限会社　１６，３９０，０００円

→９月１５日：学校への工程及び仮設計画図の説明

○来住小・大部小学校空調更新工事設計業務

８月３１日入札落札

宮永建築設計事務所　１０，９６７，０００円

→９月８日：学校・市・設計業者打合せ、現地調査

○来住小・下東条小学校照明ＬＥＤ化工事

７月８日入札落札　工期：令和８年７月１３日～令和９年３月１９日

池沢通信建設　株式会社　５７，４３１，０００円

→７月１６日：初回打合せ、７月３１日：学校への工程・仮設計画の説明

○市立小中学校照明ＬＥＤ化工事設計業務

対象校：小野小、河合小、市場小、大部小、中番小、小野中

６月２９日入札落札　工期：令和８年７月１日～令和９年３月１９日

藤野一級建築設計事務所　９，９００，０００円

→７月８日：初回打合せ、７月２３日～３０日：学校現地調査

〇河合小学校・下東条小学校遊具設置（更新）工事

老朽化のため撤去した遊具（河合小：複合遊具、下東条小：すべり台）について、設置（更新）工事を行う。

７月１７日入札落札　株式会社　長谷川組　５，４７８，０００円

→９月１０日：学校・市・施工業者打合せ、現地調査

〇市立河合小学校放送室デスクアンプ更新工事

令和８年５月に発生した落雷の影響（雷突入電流）により、放送設備が故障し、校内放送ができず、チャイムが自動で作動しない状態となり、更新工事を行う。

８月６日入札落札　有限会社　ハタヤ電設　３，４５４，０００円

〇小野中学校防犯カメラ設置工事

不審者の侵入や校内における事件・事故に対し、発生防止（抑制）と映像記録を残すため、防犯カメラを増設（屋外２台・屋内１２台）する。

※現状５台（校門・昇降口）→９月３０日入札予定

【参考】

・河合中学校　：　２台（長寿命化改良工事で１７台設置予定）

・小野南中学校：２５台

・旭丘中学校　：２０台

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Ｑ：最近、台風や線状降水帯による水害が各地で発生している。亜熱帯化といわれる気候変動により降水量が増加していることを踏まえると、学校施設の長寿命化工事を進める中でも、雨樋を含め排水機能の強化対策を検討していく必要があると考えている。また、ゲリラ豪雨については、子どもたちの登下校時間帯に発生する可能性もあり、安全確保について危機感を持っている。（教育委員）

Ａ：おっしゃるとおり、排水機能の強化については必要であると考えるが、既存施設を改修するのは非常に難しい。また、学校としては、登校を見合わせたり、下校を留めおいたりすることはできるが、登下校中における安全確保については、子どもたちに十分な指導が行えていない部分がある。そのため、今後、防災に対する知識や判断力を育む取組を防災教育の中に導入していく必要があると考えている。（教育長）

Ｑ：学校施設適正化推進事業に関するアンケートを取り上げた新聞記事において、「学校を統合する考えはない」という市長の発言が掲載されているが、市民の中には「学校の統合は行われない」と認識されている方もいるのではないのか。（教育委員）

Ａ：市長の発言は、「将来の学校のあり方については、検討を行っているところであ

り、直ちに統合はしない」というニュアンスであると考える。（事務局）

Ａ：市長は議会においても、「現時点では、学校統合を行う考えはないが、将来の学校のあり方については、議論する必要がある」との考えを示されている。ただし、新聞記事の内容については、現在の保護者世代は新聞を購読していない方が多いと考えられることから、保護者世代よりも新聞に接することの多い高齢者層に受け止められ、「学校の統合は行われない」と認識している方もいるのではないかと考えている。（事務局）

Ａ：平成２８年及び２９年に、学校施設の適正規模・適正配置について、検討を行った。「現段階において、統廃合や適正規模化に取り組む必要はないが、将来において、複式学級の導入が見込まれる状況となった際には、改めて検討する必要がある」という結論であった。その議論を踏まえ、現在、将来的に複式学級が発生する可能性が明らかとなったことから、学校施設の適正化に関する取組を進めているところである。（教育長）

Ｑ：複式学級に関する認識が保護者に十分浸透していないため、その実状を認識してもらうことが、重要なのではないかと考えている。（教育委員）

Ａ：そのとおりである。７月の学校施設適正化の会議において、保護者から「現在の教員は、複式学級に対応できるのか」という意見が出た。その際、現在の教員の中には、複式学級の指導経験や専門的な指導技術を持っている者がほとんどおらず、現状では十分な対応が難しいとの結論に至っている。（事務局）

Ａ：複式学級は、学年ごとの発達段階に応じた教育を行う上で課題があり、国が提示している学習指導要領では、積極的に推奨しているものではない。そのため、以前の議論では、複式学級はできる限り回避すべきであるとの結論に至っている。しかし、現在の児童生徒数の推移を踏まえると、数年後には複式学級の導入を検討せざるを得ない状況になる可能性が高まっている。子どもたちや保護者だけでなく、地域の声も聞きながら、検討していきたい。（教育長）

■〔いきいき社会創造課関連〕

①図書館開設３０周年記念事業

（進捗状況）

・９月８日現在、「読書マラソン大会」に１３４人が参加しており、１００冊達成者は５２人となっている。

②地域づくり協議会事業

（今後の予定）

１０月２４日、２５日　　きすみの祭り
１０月２４日、２５日　　いちばふれあいの祭典
１０月３１日、１１月１日　下東条地区文化祭

１１月　１日　　小野陣屋まつり
１１月　７日、　８日　　おおべふれあいのつどい
１１月１４日、１５日　　かわいフェスタ

③いきいき社会創造課情報

〇第５１回東はりまコーラス大会

日　　時：１０月１８日（日）１３時３０分～１６時３０分
場　　所：小野市うるおい交流館　エクラ
出演団体：Con La Musica 夢詩歌、小野市民合唱団 他

〇第４回成人式実行委員会

日　　時：９月２５日（金）１９時００分～２１時００分
テ ー マ：ほんまやで☆２０歳（はたち）やねん☆しらんけど
※２０歳を迎えるが、新成人として大人の一員になった自覚がない人も多い中で、「成人式」を大人になったと自覚する機会にして欲しい。

〇図書館　認知症関連展示　※認知症月間にあわせて開催

期　　間：９月１日（火）～９月２３日（水）
内　　容：地域包括支援センターが推薦する本を含め、認知症理解、予防、介護などの本、１００冊を展示

〇好古館　企画展「子どものくらし大図鑑」

期　　間：６月６日（土）～９月２３日（水・祝）
内　　容：昭和１００年を記念して、激動の時代の子どものくらしの変化を関連資料や写真で振り返る展示

〇好古館　観月茶会

日　　時：９月２６日（土）１７時００分～２０時００分
場　　所：好古館　研修室　　来 場 者：約１５０人

〇コミセンおおべ　第２１回おおべのショー

日　　時：９月１２日（土）１６時００分～２０時３０分
場　　所：広渡廃寺跡歴史公園
来 場 者：約６，０００人（昨年度：４，７００人）

◆第３８回上田三四二記念　小野市短歌フォーラム

応募状況（一般の部）１８６首（９月１０日現在）

ＬＩＮＥ：８６首、郵送・持参：１００首　ＬＩＮＥ率：４６．２％
※第３７回実績（一般の部）　７６６首
ＬＩＮＥ：９５首、郵送・持参：６７１首　ＬＩＮＥ率：１２．４％

④行事一覧（既に終了した事業を含む）　※別紙詳細

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Ｑ：コミセンおので開催している短期講座のお茶会に、教育委員として招待を受けているが、茶道の作法等に不慣れであることから、正客としての役割を担うことは難しい。また、公平性を考えると、各コミセンの講座に教育委員がそれぞれ参加する形であれば理解できるものの、特定のコミセンの講座にのみ、教育委員全員が出席することについては、慎重に考える必要があると感じている。（教育委員）

Ｑ：正客として招待いただくに当たっては、事前に主催者の意図や進行内容について説明を受けておきたい。事前の情報共有がないまま参加した場合、役割や場の雰囲気を十分に理解できず、戸惑うことも考えられる。参加者全員が楽しく学べるよう、親しみやすく和やかな雰囲気で進めていただければ、より充実した会になるのではないだろうか。（教育委員）

Ｑ：好古館の「観月茶会」のように、形式にとらわれすぎず、ゆったりとした雰囲気の中で楽しく学べる会であれば、多くの方にとって参加しやすいものになるのではないかと思う。（教育委員）

Ａ：短期講座は、講座内容を学びたい方の参加を前提としていることから、教育委員を招待することについては、少し趣旨が異なるのではないかと検討を指示している。（事務局）

Ａ：教育委員の招待については、コミセンの所長が判断しているが、公平性や事業趣旨に関する意見があったことを共有し、今後の事業運営に活かしていく。（事務局）

■〔スポーツ振興課関連〕

①学校保健体育事業の推進

（進捗状況）

・小学校「おの体力検定（水泳検定）」結果集計（別紙詳細）

学年	目標級	令和７年度	令和８年度	前年比較
１	１０級	１１．３１級	１０．７１級	↑
２	９級	１０．０４級	８．９３級	↑
３	５級	８．４６級	７．４５級	↑
４	４級	６．１０級	５．５５級	↑
５	２級	５．３４級	３．９２級	↑
６	１級	４．３０級	３．５０級	↑
平均	５級	７．５９級	６．６８級	↑

令和８年度から、級を取組みやすい基準に改訂したこともあり、昨年度より級は上がっている。しかし、学年別の目標達成率が昨年度より低いため、来年度の取組内容を踏まえて、種目内容等を見直す必要があると考えている。

・第１２回おのっこ産クッキングコンテストの審査結果（別紙詳細）

大　賞：「無花果（いちじく）とさつまいものポタージュ」

小野中学校　宇仁菅　優桜（うにすが　ゆうか）さん

テーマ：「スープ」で朝食レシピを作ろう

※銀賞の「ピリ辛担々麺はるさめスープ」は、２月の給食で提供される予定である。

（今後の予定）

・９月～：なわとび検定（２学期・３学期）実施。

②第１３回小野ハーフマラソン２０２６

（エントリー状況）８月３１日現在

	令和８年度	令和７年度
ハーフ男子	３，４３４	２，９１６
ハーフ女子	１，１７４	８５０
５ｋｍ男子	３０９	２５５
５ｋｍ女子	３０６	２３１
１．５ｋｍ小学４～６年	１９５	１５３
１．５ｋｍ小学１～３年	２１４	１７８
合　計	５，６３２	４，５８３
申込率	９３．９％	７６．４％

（進捗状況）

・ハーフの部については、９月７日、５ｋｍ・１．５ｋｍについては、９月１４日に申込を締め切っている。

・９月１４日時点では、昨年より２００人多い、過去最多の６，０１８人のエントリーとなっている。

・９月２５日、第２回実行委員会を開催し、スポーツ協会関係者及び地域づくり協議会の代表者に役割分担や人数割当等について説明を行った。

③スポーツ振興課情報

１　学校保健体育

〇小野市中学校新人体育大会

日　時：９月１９日（土）
※陸上競技は井上記念小野市陸上競技大会と兼ねて開催（１０月１２日）
場　所：アルゴ、アクト、アレオ、小野中学校等（小野市内公共施設）
主　催：小野市中学校体育連盟
→【大会結果（団体）】（別紙詳細）

ソフトボール	小野南中　優勝、小野中　２位
野球	小野中　優勝
バレーボール男子	小野中　優勝、旭丘中　２位
バレーボール女子	小野南中　優勝、旭丘中　２位
バスケットボール男子	小野中　優勝
バスケットボール女子	旭丘中　優勝
卓球男子	小野南中　優勝、小野中　２位、旭丘中　３位
卓球女子	河合中　優勝
サッカー	小野中　優勝
ソフトテニス男子	河合中　優勝
ソフトテニス女子	小野南中　優勝

※上記は東播大会に出場（陸上競技、柔道はすべて出場）

○第２９回兵庫県中学校陸上競技大会

日　時：９月２６日（土）、２７日（日）
場　所：神戸総合運動公園　ユニバー記念陸上競技場
主　催：兵庫県中学校体育連盟、（一財）兵庫県陸上競技協会、
兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会
→【大会結果】（別紙詳細）

１年男子	１５００ｍ：小野中　２位、３位
２年男子	１００ｍ：旭丘中　優勝、３位
１．２年男子	２００ｍ：旭丘中　優勝
	４００ｍ：小野中　３位
	４×１００ｍ：旭丘中　優勝
	四種競技：旭丘中　優勝
男子総合	旭丘中　優勝
男女総合	旭丘中　２位

○小野市内中学校体育祭・幼稚園運動会

・小野中学校　　１０月３日（土）
・小野南中学校　１０月３日（土）
・旭丘中学校　　１０月３日（土）
・おの幼稚園　　１０月２日（金）

２　社会体育

○２０２６ソフトバレーボール大会　ｉｎ　ＯＮＯ

日　時：９月１３日（日）９時００分開会

場　所：小野市総合体育館アルゴ　アリーナ

主　催：小野市スポーツ推進委員会

参加者：２２チーム　１１２名（昨年度：１８チーム　１０２名）

→コロナ禍以降、徐々に参加者が増えている。

３　今後の予定

○第２４回井上記念陸上競技大会兼小野市中学校新人体育大会
兼第５３回小野市小学生陸上競技大会

日　時：１０月１２日（月・祝）９時００分開会

場　所：小野希望の丘陸上競技場アレオ

主　催：小野市陸上競技協会、小野市小学校体育研究会、小野市中学校体育連盟

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Ｑ：中学校新人体育大会の複数の会場を見て回った。どの競技もレベルが高く、楽しく観戦させていただいた。中でもバスケットボールでは、選手が５名のみのチームが勝利を収めており、印象に残った。（教育委員）

Ａ：生徒たちが日頃の練習の成果を発揮し、活躍している様子をご覧いただけたものと考えている。こうした中、中学校の部活動については、来年度から拠点校方式による運用を開始する予定である。現在の体制との違いや今後の進め方については、後日、改めて説明する機会を設けたいと考えている。なお、新たな地域クラブとして、「剣道」「空手」「カード競技」のクラブチームから事前申請が提出されている。（事務局）

Ｑ：新たな地域クラブの「カード競技」は、どのように勝敗をつけるのか。（事務局）

Ａ：「カード競技」については、市販のカードを使用するのではなく、生徒が自ら作成したカード６０枚を用いて、カードの強い弱いにより対戦を行い、得点により勝敗を決定するものであると聞いている。（事務局）

４　協議事項

学校現場における生成ＡＩ使用ガイドラインについて（学校教育課）（別紙詳細）

①生成ＡＩの概要

・あらかじめ膨大な量の情報から、深層学習（※）によって構築した大規模言語モデルに基づき、ある単語や文章の次に来る単語や文章を推測し、「統計的にそれらしい応答」を生成するもの。

・指示文（プロンプト）の工夫で、より確度の高い結果が得られるとともに、更

なる精度の向上も見込まれているが、回答は誤りを含む可能性が常にあり、時には、事実と全く異なる内容や、文脈と無関係な内容などが出力されることもある。

※深層学習

コンピューターが自動的に膨大な量のデータを学習し、その特徴（ルールやパターン）を発見する技術

②本ガイドラインの目的

・小野市の教育は、「おの夢と希望の教育」を基本とし、「脳科学と教育」の観点から、幼少期及び義務教育学習におけるデジタルの活用は抑制すべきであるという方針である。生成ＡＩを含めたデジタル技術は、今後、社会全体に一層浸透し、避けては通れない存在になると捉えている。そのような社会を生き抜いていく子どもたちには、新たなデジタル技術に対応し、適切に活用していく「情報活用能力の育成」は不可欠であると考える。したがって、「おの夢と希望の教育」を基礎とした「情報活用能力の育成」を推進する。

・児童生徒の「良いものを作成したい」という気持ちを生成ＡＩを用いて学習現場（授業等）で実現するのではなく、発達に応じた“自分で考える”や“友達と協力する”、“目を見た話し合い”“紙に書いてまとめる”等、人にしかできない実体験・実経験に数多く触れることを学習の基本とし、教育活動に取り組むことで実現していくことを基本とする。

・生成ＡＩは、業務効率の改善や新しいアイデア出しなどに役立つ反面、入力したデータがバックグラウンドで学習され、第三者の回答に利用される可能性があるなど、情報が他者に漏洩・拡散されるリスクがある。また、入力するデータの内容や生成物の利用方法によっては、法令に違反したり、他者の権利を侵害したりする可能性がある。「Society5.0」の時代を生きる児童生徒には、生成ＡＩなどの先端技術に対応できる情報活用能力（情報モラルを含む）や倫理的判断力を育成する必要がある。その観点から生成ＡＩの特性や限界を理解し、情報の真偽を見極める力を養うため、本ガイドラインをもとに安全かつ効果的に活用する。

・使用する際には、本ガイドラインをよく読み、個人情報などの児童生徒、学校、市民の権利、財産をしっかりと守ることが求められる。

③本ガイドラインが対象とする範囲

小中学校、特別支援学校、幼稚園を含む教育委員会を対象とする。

■【教育委員からの照会及び意見】

Ｑ：生成ＡＩは、既存の情報を模倣するため、著作権や意匠権等の権利侵害が生じないよう気を付けなければならない。しかし、生成された物が、既存の作品を模倣しているかどうかを検証することは、非常に難しい。例えば、子どもが描いた素

晴らしい作品であっても、元となる著名な作品を知らなければ、模倣していてもわからない。そのため、生成された物に対して、猜疑心を持つことが一番重要ではないかと思っている。（教育委員）

Ａ：おっしゃるとおり、生成ＡＩは、過去の積み重ねた大量のデータを基に成果物を生成することから、絵画等の作品については、既存の作品とどこか似ている部分はある。そのため、判断する力やクリティカル・シンキング（批判的思考）の育成が必要だと考える。（教育長）

Ａ：現在の簡易式の生成ＡＩにおいては、簡単に答えが出てしまい、子どもたちの思考が下がる恐れがあることから、このガイドラインに従い、小野市は当面使用しない方針で進めていく。ただし、生成ＡＩについて学ぶことは必要なため、情報教育の担当者会等で、どういう内容のガイドラインにするかを十分に議論し、子どもたちに伝えていく必要はある。考えを深めるために生成物をどのように使うか、参考として活用できるかどうか、信用できるものであるかどうか等を選択できるようになれば、学校現場において生成ＡＩを使用できるようになるのではないかと思っている。（事務局）

Ｑ：このガイドラインの７ページの７行目、「生成ＡＩは、インターネット上の情報を基に学習していることが多いため、生成される回答は、多数派の意見が尊重され、少数派の意見が反映されにくい傾向がある」と記述されているが、こういった基礎的なことを教職員に伝えていく必要があると思う。（教育委員）

Ａ：教職員の方々は、過去の経験やノウハウが蓄積されているため、対話へと導き出せるテクニックも持っていらっしゃると思う。その過程で、生成ＡＩが果たして必要なのか疑問である。（事務局）

Ａ：最初から生成ＡＩを使用すると、安易に答えと思われるものが出てくることで、本来必要な対話や意見交換が省略されてしまうことも懸念される。また、生成ＡＩを使い過ぎると、子どもの学力が育たないという事例が、ＯＥＣＤの報告にも示されている。川島教育行政顧問からのご助言にもあるように、小野市は当面使用しない方針で進めていく。（事務局）

Ｑ：小野市は生成ＡＩを使用しない方針で進めるとのことであるが、このガイドラインには、生成ＡＩの利用についても書かれている。教職員については、使ってもよいのか。（教育委員）

Ａ：業務改善には生成ＡＩを使用してもよいが、過度な使い込みは、教職員の指導力の低下を招くと考えている。教職員が使用する校務パソコンには、生成ＡＩが組み込まれておらず、実際には使用できない仕組みになっている。また、個人で使用することについて制限することは、難しいと考えている。（事務局）

Ｑ：児童生徒については、宿題での生成ＡＩの利用を認めないとのことであるが、教

職員が宿題を作るためのたたき台として、生成ＡＩを使用することはできるのか。（教育委員）

Ａ：業務改善の範疇内のため、生成ＡＩを使用してもよいと考えるが、今は「コピー可」の問題集もたくさんあり、学習内容に沿った問題を印刷し、配布する方が早いこともある。生成ＡＩに宿題の内容を検討させることは、生成物の内容について適切か否か等、確認する手間なども考えると現実的ではないと考えている。（事務局）

Ｑ：このガイドラインの２ページ目の「本ガイドラインの目的」の内容は、小野市の基本的な考え方でありスタンスである。この「本ガイドラインの目的」には、一番言いたいことが集約されているため、非常に重要な部分であることから、太字で大きい文字にして強調した方がよい。（教育委員）

Ａ：承知した。（事務局）

５　その他

・令和８年度近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）

日　時：１１月１３日（金）１４時３０分～１６時５０分

場　所：小野市役所　４階会議室４－１

テーマ：「(仮題)次期学習指導要領に向けた検討状況」

・令和８年度近畿市町村教育委員会研修大会（オンライン）

日　時：１１月２４日（火）１３時３０分～１５時００分

場　所：西脇市役所

テーマ：「(調整中)次期学習指導要領改訂の方向性」

６　次回定例教育委員会予定

１０月２６日（月）１３時３０分～　４階会議室４－１

１１月２６日（木）１３時３０分～　４階会議室４－１

７　閉会あいさつ　教育長